

キルギス レポート

青年海外協力隊 25年度1次隊 中村寛

Тоттолой бардыгысы, саламасыздарбы！（鳥取の皆さん、こんにちは）

私は2013年7月から、青年海外協力隊員としてキルギス共和国でボランティアをしています。村落開発普及員という職種で、主に地域の特産品作りの仕事に携わっています。

さて、冒頭から質問ですが、キルギスという国がどこにあるのか、ご存知でしょうか？

南太平洋の島国。。ではありません！それはキリバスです。

正解は、**中央アジア**にあります。きっと分からなかったのではないかと思います。そもそも、“キルギス”という名前さえ、聞き馴染みがないのではないのでしょうか。私は縁あって協力隊員として、この国に派遣され、多くの魅力を体感してきました。そこで、この機会にキルギスという国とその魅力について、ご紹介させていただきます。



キルギスの地図。

・国名

国名の由来は、キルギス語のк ы р к（クルク）、数字の“40”であると言われています。もともと遊牧民の国で、たくさんの部族があり、それら40もの部族から成り立つという意味を表しているそうです。



・国旗



赤地は勇敢さを、太陽は平和と豊かさを象徴しています。太陽のゆらめいている外側の線は、前述したことに関連し、きちんとк ы р к “40” あります。時間があれば数えてみてください。



中心の2組の3本線を交差させた模様は、遊牧民の伝統的なテント式家屋（キルギスではボズ・ウィ、モンゴルではゲルと呼ばれる）の頂部にある構造を表したもので、祖国や宇宙を象徴しています。

上：国旗。下：ボズ・ウィ頂部。

・地理、気候

北にカザフスタン、東に中国、南にタジキスタン、西にウズベキスタンに囲まれた中央アジアの内陸国で山岳地帯です。

ちなみに“～スタン”とは“～の土地”という意味です。キルギスも以前はキルギスタンと名乗っていましたが、周りの国も“スタン”が付いていて紛らわしいということで外したそうです。

私の配属先はナリンという地域で、標高は2000mと、鳥取で一番高い山、大山(1729m)の頂上より高いところに位置しています。典型的な内陸性気候で、寒暖差が大きく、夏は45℃、冬は-30℃に達することもあります。湿度が低いのも特徴で、夏は日本よりも暑いですが、カラッと乾いていて気持ちがいいです。



ナリンの冬。美しい樹氷が見られます。

・人

親日的です。

日本人と顔が似ていて、「祖先は一緒だ」とよく言われます。

キルギスでは日本車が多く走っており、他の外国車と比べて耐久性が高く、長持ちして良い、という話をよく聞きます。この様なことも日本に対して、プラスのイメージとなっていると思われれます。

家族、特に子供を大切にします。

キルギスの諺に「子供がいる家は、バザール。(にぎやかで楽しい) 子供がいない家はマザール [お墓]。(悲しい、さびしい)」という言葉があります。田舎ではモノを買うお金が少なく、食事がパンとチャイ(お茶) だけという家もありますが、それでも子沢山の家が多く、子供のためにお金を使います。そして、現地の人達と話していると、しばしば「なんで結婚しないんだ、早く家庭を持って」と言われます。昔の日本もこの様に家族さえあれば、という考えに近かったのかもしれませんが。今の日本人はいろいろと求めすぎているのかな～、などと幸せについて考えさせられます。



・文化、風習



“トイ”という食事メインのパーティーが、祝日や結婚式などのおめでたい時や、来賓をもてなすために行われます。テーブルには食べきれないほどの料理が次々と運ばれてきます。ゆっくり食事をしながら話をしたり踊りを踊ったり、長いときには6時間以上も続くことがあります。これは昔の遊牧民だった頃、遠くからはるばる来たお客様への最大限のおもてなしの名残だと言われています。

トイ開始時でこの状態！

ここから更に料理が出て来ます。

古くからの風習に“アラカチ(誘拐婚)”というものがあります。その名のとおりに、女性をさらってきて結婚するというものです。近代化に伴い、この風習は廃れてきてはいますが、いまだに残っています。

私の後からキルギスへ赴任した隊員が、研修のため村にホームステイしていた時、偶然にも隣の家に連れてこられている現場を目撃したそうです。

伝統的なスポーツには、遊牧民生活をしてきた影響から、馬に乗っておこなうものが多いです。アトゥチャブシュ(相手を馬上から落としあう本当の騎馬戦:写真左)、オーダルシュ(一周5キロ以上のコースを何周も走る長距離の競馬:写真右)などがあります。



伝統衣装や家財道具は、“オイモ”という自然や動物を表現した特有の模様で彩られています。カルパック(帽子。正装の時によく被られます。:写真左)、シュルダック(羊毛で作られた絨毯:写真右)



・食べもの、飲みもの

各家庭にはナン(パン)を焼く釜やオーブンが必ずあります。日本人にとっての米と同じで、何はなくとも、ナンがなければならぬ！というものです。ナンは円形の平べったいものが一般的です。

代表的な料理にはベシュ・バルマックがあります。これは、きしめんのような平打ち麺の上に茹でた羊肉をのせたものです。ベシュ・バルマックとは“5つの・指”という意味で、その名のとおりに箸やフォークを使わず、手で頂くのが伝統的なスタイルです。お祝いごとの時に食べます。



飲み物は普段、チャイ(紅茶)が好んで飲まれています。夏季には、馬の乳を発酵させたクムズ(馬乳酒)が出回ります。

キルギス人のソウルフード、
ベシュ・バルマック。

お酒はアラック(ウォッカ)やコニャックが好まれており、ビールよりも種類が断然多いです。トイの時は必ずと言ってよいほどアラックが振舞われます。“トス”と呼ばれる祝福・乾杯の挨拶がある度にショットグラスに注がれたアラックを飲み干さないといけないので、最後のほうには皆かなり酔っ払っています。

・おススメ観光スポット

首都のビシュケクは大型ショッピングモールやクラブがあったりと、途上国という様子はあまり感じられませんが、少し地方に行くと雄大な自然が広がり、そこが魅力でもあります。

イシククル湖 琵琶湖の9倍、米子市の中海の72倍もの面積を持つ広大な湖です。透明度が高く、湖の中ではロシアのバイカル湖に次ぐ世界第2位です。湖から万年雪の被った山々を見渡すことができ、その景色は中央アジアのスイスと言われます。夏場には欧米からたくさんの観光客が訪れます。



スカスカ ロシア語で「おとぎ話」を意味します。この地は、山岳地帯で様々な山の景色を見ることができるキルギスの中でも稀な奇岩群を見ることができます。その神秘的な景色は中央アジアのカップドキアです。イシククル湖の南岸に位置し、そのエリアには塩分濃度が高いため、浮くことができる塩湖もあります。



ソンクル湖 イシククル湖とは違った、リゾートではない、手付かずの自然があります。湖の周りには草原が広がり、家畜の羊やヤギを放牧している風景に遊牧民時代のキルギスが思い起こされます。標高3016mで、人工の灯りがボズ・ウィ(テント式家屋)のものしかないため、夜は満点の星空と天の川をはっきりと眺めることもできます。



いかがでしょうか？キルギスについて少しでも興味を持って頂けたでしょうか。そうだ、キルギスへ行こう！と思ってもらえれば、御の字です。そうでなくとも、まず知るといふこと、そこから友愛の気持ちや国際協力は育まれていくと思います。ですので、このレポートを見る前より、少しでも関心を持って、遥かなる中央アジアの国に想いを馳せて頂ければ幸いです。

最後までお読みいただき有難うございます。



レポート作成者… 中村寛。米子市出身。2014年現在、キルギス共和国のナリン市にて、羊毛を使った靴下や手袋、折り機を使用した装飾品等の特産品作りサポートを主として活動中。



活動に関わる商品には無印良品さんとの提携で、東京など一部店舗で販売しているものもあります。もし見かけた際には、ぜひお買い求めください♪